松澤俊行の
オリエンテーリング道場
第 29 回

世界選手権上位選手に聞く

松澤俊行

日本オリエンテーリング界に大きな感動を与えた愛知世界選手権。選手として出場した筆者が、期間中上位選手と交わした会話を紹介します。

シモーネ・ニグリ・ルーダ

（スイス）
（4 種目制覇で WOC 通算 10 勝達成）

松　「何度も繰り返し聞いていると思いますが、おめでとうございます。今回の世界選手権のコースはどうでしたか？」

シ　「ロングはルートチョイスが豊富なコースで面白かった。ミドルはルートチョイスがあまりなかったけど・・・。テレインが良くて、気分良く走れたわ。トレーニングテレインで練習している時はキロ当たりタイム 10 分切れるとはとても思えなかったけれど、本番のテレインは走りやすかったわね。」

松　「あなたは世界中多くの国々で勝っています。その中でも日本はあなたにとって最高の国の一つに挙げられるのではないでしょうか。」

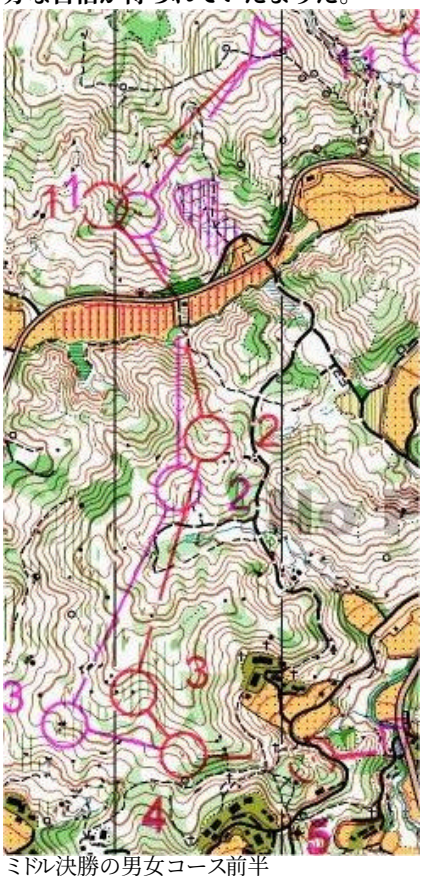
シ　「その通りね。」

松　「また日本に来て欲しいものです。」

シ　「じゃあまた来月！・・・というわけには行かないけど・・・いずれまた来たいと思っている。」

松　「みんな待ってますよ。」

シモーネ選手は昨年 11 月来日の際は故障で一週間テレイン内での練習ができず、かなりストレスをためているのが見て取れた。それでも、3 月に 10 日間・世界選手権直前に一週間、日本での練習と調整を重ね、レース前には充分な自信が得られていたようだ。



ミドル決勝の男女コース前半
ミドルは大きくルートが分かれなかった。こうなれば体力に勝るシモーネ選手の独壇場

ダニエル・フブマン（スイス）

（スプリント２位・リレー３位）

松　「スプリントの成功の要因は何でしょうか。」

ダ　「何だろうね・・・。説明するのは難しいな。」

松　「5 月のワールドカップ・スプリントでも勝っているし、あなたがスプリントに強いのはよく分かっていました。でも、今回はヨーロッパのテレインのスプリントと相当違ったでしょう？」

ダ　「確かに、全く違っていたと思う。でも何故うまく走れたか一言で言うのは難しい。ともかく、ミスのない良い走りができたんだよ。」

松　「リレーはどうでした？」

ダ　「うん、かなり満足しているよ。」

元々地力がある上に、昨年 11 月から 9 ヶ月の間に 3 度も準備のために来日したスイスチームが今回活躍したのは至極当然に思える。男子のリレーも当然優勝を視野に入れていただろう。「満足している」と言いながらも、ダニエル選手の顔には「やり残したことがある」という表情が覗いていた。

ティエリー・ジョルジョ（フランス）

（ミドル 3 連覇・ロング 7 位・リレー2 位）

松　「ミドルの優勝、おめでとうございます。」

ティ「ありがとう。」

松　「ロングはどうでしたか？」

ティ「合計 2 分ほどミスしているけど、概ね満足している。（表彰には届

かなかったけど）ミドルの疲れも少々あったし、世界選手権のロングを走るのは初めてだから。満足しているよ。」

松「2 位だったリレーについては？もちろん 1 位の方が良かったでしょうけど・・・。」

ティ「リレーの成績に対しても充分満足している。」

松「あなたにはワールドカップ・シリーズチャンピオンの可能性も充分あると思います。イタリアでの再会を楽しみにしています。」

ティエリー選手は昨年10月に故障し、11 月の来日予定をキャンセルした。3 月にスイスチームに帯同した際は「急斜面にある岩や崖を、地図と現地で対応させるのが難しい」と話していた。それでも、半年未満の間に対策は完了したようで、見事な走りを披露してくれた。

ユーリ・オメルチェンコ

（ウクライナ）

世界選手権期間中、ユーリ選手は日本選手団と同宿だった。山口大助選手と共に、風呂場でアンドレイ・ハラモフ選手（ロシア・ロング優勝）について尋ねた。

松「アンドレイ選手は北欧に住んでいるのでしょう？」

ユ「彼はスウェーデンに滞在したことがあるが、1 年間ぐらいだ。今はロシアで生活している。」

松「彼は世界選手権を迎える以前は来日していませんね。ロシアと日本ではテレインも気候も異なると思いますが・・・。」

ユ「彼の現在の拠点は黒海方面の山地だ。斜面もきついし、気候だって暑いよ。今回の世界選手権に向けて準備するには最適の地域さ。世界チャンピオンになるぐらいの選手はそうやって練習環境を整えているものだよ。」

1995 年の世界選手権ショート（ミドルの前身種目）で優勝し、ロング・スプリント・リレーでも上位の経験を持つユーリ選手だが、今回はミドルとスプリントの両種目で悔しい予選不通過。「トレーニング不足」との理由からロングは出走しておらず、ウクライナから唯一の参加選手であるためリレーチームも組めなかった。彼は自嘲気味にこう語っていた。

「好成績を残してきたにも関わらず、この 10 年間ウクライナ協会は遠征費の補助を一切してくれなかった。ところが、今回初めて補助してくれたんだよ。それなのにこの有様さ。」

道場主の世界選手権

過去の連載記事中で「地の利とは、得るのに相応しい準備をした者だけが得られるもの」と記しました。残念ながら、そう記した筆者自身が地の利を得られる域に達していませんでした。今回の世界選手権での筆者の出来は過去の世界選手権並みであり、トップとのタイム比等も大きく変わりませんでした。

ここで紹介した上位者の声からも、「日本での準備」は成功のための有効な方策であるがそれは絶対的なものではないし、他にも有効な方策が存在することが分かります。日本チームの多くの選手が過去にない活躍を見せたのも「地元のテレインだったから」という以前に「適切な強化策が行われ、力を付けたから」ととらえた方が良いように思います。もちろん、皆さんの大声援を受けられたのは「地元ならでは」で、そのことによって益々力を引き出されたのは間違いありませんが。

筆者に関して言えば、今後はどんな場所でも発揮できる確かな力を付けることが課題になります。日本人にもなじみ深いビヨルナー・バルスタッド（ノルウェー）も自国で 1997 年に行われた世界選手権で思うような成績を残せなかったものの、2 年後の世界選手権ロングで初優勝し、2004 年に再度優勝、「伝説のチャンピオン」となりました。スケールは違っても、筆者も次回以降の世界選手権で何らかの足跡を残せるのではないかと考えています。

<松澤俊行プロフィール>
1972 年静岡県生まれ。東北大学に入学した 1991 年からオリエンテーリングを始める。現在は愛知教育大学 教育学部 生涯教育課程 スポーツ・健康コースで生涯スポーツの指導について学ぶ。2000 年度・2003 年度全日本選手権優勝。1999 年・2001 年・2004 年世界選手権日本代表。ホームページURLは
http://members.aol.com/mazzawa/index.html

ロング予選に挑む道場主・松澤俊行。予選 16 位で残念ながら決勝には進めなかった。